



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・2週間を切ったネタニヤフ首相の組閣期間

イスラエルのネタニヤフ首相が持つ組閣のための時間は、2週間を切った。同首相は、当初の28日間で組閣ができず、3月2日、ペレス大統領に2週間の期間延長を要請した。ネタニヤフ首相が、3月16日までに組閣できない場合、別の国会議員が首班指名を受ける。現在の時点では、第二党イエーシュ・アティド（未来の党）のラピッド党首の可能性が高いが、同党首には政治家としての経験はまったくない。2回目の組閣期間は、28日間。同期間内に組閣できない場合、大統領がその旨をその国会議員に通告する。同通告から90日以内に選挙が実施される。

ネタニヤフ首相は、イエーシュ・アティドと「ユダヤの家」を分断して、「ユダヤの家」（極右）を連立に入れようとしたが、できなかつたと報道されている。そのため、ネタニヤフ首相は、両党を連立に入れる方向で協議を進めているようだ。イエーシュ・アティドと「ユダヤの家」が連立に参加すれば、議会内過半数（61議席）を超える62議席を確保できる。ネタニヤフ首相は、さらに議席を積み上げたいだろう。しかし、イエーシュ・アティドと「ユダヤの家」は、宗教政党とは組みたくない意向のようである。他方、与党になり、教育相や内相のポストを取り、その権限と予算を確保することが重要な宗教政党は、何としても、連立に残ることを目指していると報道されている。宗教政党シャスは、野党に回る場合、入植地撤去を支持するとの脅しをかけているようだ。統一トーラー・ジュダイズム党は、選挙のやり直しを言い出している。ネタニヤフ首相としては、すでに連立に合意しているハトゥヌア（中道・6議席）に加えてカディマ（中道・2議席）を加えることも可能である。ただ、どの党に参加させるとしても、イエーシュ・アティドと「ユダヤの家」の意向を確認する必要があるだろう。

イエーシュ・アティド（中道右派）と「ユダヤの家」（極右）は、政治的な立場は違うが、神学生の兵役免除問題や国内の経済問題に関する立場は近いとされる。ネタニヤフ首相は、両党の主張を尊重するしかない。その場合、ネタニヤフ首相は、内政問題では、神学生の兵役免除問題で宗教勢力と、予算を削られる軍と政治的に対峙することを強いられる可能性が高い。ただ、中東和平問題では、極右の「ユダヤの家」は当然だが、中道右派のイエーシュ・アティドは、かなりタカ派であり、ネタニヤフ首相としては組みやすいかもしれない。ただ、イエーシュ・アティドのラピッド党首は、外相ポストを希望していると報道されている。ネ

タニヤフ首相は、外相ポストは、イスラエルベイツヌ党首のリバーマン前外相のために確保したいと希望している。

米国のオバマ大統領は、3月20日～21日にイスラエルを訪問する予定である。連立内閣が成立していない場合は訪問を中止するとの見方があったが、3月6日のハアレッツ紙は、組閣と関係なく訪問すると報道している。

(中島主席研究員)